

体育教員が日本について英語で教えてみたら。 Vol.2

オーストラリアでは、Pre-Primary（日本でいう年長）から義務教育がスタートし、早いところでは、年長（5 歳になる年）から外国語学習が始まります。私も週一回 PP の授業をしています、純粋で無邪気な姿にいつも圧倒されます。

さて、ひらがなの「あいうえお」は日本では小学一年生で習い但しませんが、オーストラリアでも、Year1（小 1）や Year2（小 2）くらいから始まります。といっても、アルファベットとは大きく形の異なるひらがなを覚えるのは、想像以上に大変です。とくに「わ」「れ」「ね」の見分け方は難しいようです。「る」「ろ」も違いがわからないことがあります。また「あ」「お」も混同しやすく、ひらがな 46 字を覚えるのは上級生にとっても簡単なことではありません。

そこで授業中によく使われるのが、ひらがなフラッシュカードです。これはひらがなをストーリー形式で覚えていくフラッシュカードで、小学生たちはこのストーリーを暗唱しながら、ひらがなの形を覚えていくのです。これがおもしろいので、今回紹介します。



Three Sparkling rubies. “ru” is for rubies.

「る」の最後にはまるがあります。それをルビーに見立てて、数字の 3 にルビーがくっついているのは・・・「る」、という具合です。

一方、「ろ」は

Oh, no! A robber stole the rubies! “ro” is for robber.



ルビーが点線で描かれていて、なくなってしまった様子がわかります。「る」についていたルビーが robber（どろぼう）によって盗まれてなくなってしまったあ。「る」からまる（ルビー）がなくなったら、robber の「ろ」、という具合です。

「る」「ろ」は秀逸な作品だと思います。「わ」「れ」「ね」はそれぞれが独立したストーリーなので、少し見分け方が難しくなります。



A magician's wand.

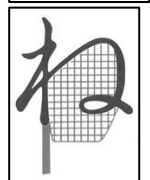
“wa” is for wand.

杖から魔法が出ている様子



A man sits down for rest. “re” is for rest.

男性が腰かけて休んでいる様子



A basketball net with a hole in it. “ne” is for net.

バスケットボールネットに穴が空いている様子

わかりますか？

初めてこの授業を担当した時は少々混乱しましたが、子どもたちが見慣れないひらがなをまるで私たちが星座を見るかのよう、覚えていることに面白さを感じました。そういえば小さい頃、NHK のみんなのうたでアルファベットを歌いながら覚えたような記憶があります。今でも半分くらいは歌えるはずで。

ひらがなフラッシュカード。子どもたちの想像力を生かした面白い授業です。